

聖書の言葉

平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

2022年8月14日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市西区老松町30番地

シャロームタイムズ

平和聖日

今年の当教会の平和聖日は7月31日
今年のシャロームタイムズに、2022
年3月の国連事務総長の言葉を掲載
しました。覚えていただきますか？

国連事務総長グテーレス氏の言葉は次のようでした。
「私たちの世界はコロナウイルスという共通の敵と戦ってい
ます。このウイルスは、国も民族も何も関係なくすべての人
を容赦なく攻撃します。その一方で、全世界では激しい紛争
が続いています。女性と子ども、障害をもつ人々、社会から
隔絶された人々、避難民など、最も脆弱な立場に置かれた人々
が最も大きな犠牲を払っています。コロナと戦争、二重の
意味で弱い立場の人はずっと弱い立場になります。ですから
皆さん、戦争をやめましょう。戦争という病はすぐに終
止符をうつしましょう。」と。
けれども、今年の2月にロシアがウクライナに侵攻。今の時
代に信じられない事態が起こっています。また、
国同士さまざまな問題もあり、世界はどうなってしまう
のかと本当に心が痛みます。一刻も早く平和的
解決がなされますように心から祈ります。



「主の平和 シャロームを祈ろう」より

牧師 奈良 昌人

【聖書】ヨハネによる福音書20章19〜23節

【聖句】「このように、わたしは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、この栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇ります。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むというこころを。」

ローマの信徒への手紙5章1〜11節

主イエスの復活の日の夕方、弟子たちはユダヤ人たちに恐れて家の戸に鍵をかけていました。そこに主イエスが来て真ん中に立たれ、「あなたがたに平和があるように」（ギリシア語でエイレーネ、ヒューミン、ヘブル語でシャローム）と言われました。これが最初のキリスト教会の礼拝ではないでしょうか。弟子たちは集まって何をしていたのかは記されていませんが、主イエスは集まっていた弟子たちにシャローム平安を告げるみ言葉を告げ、息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言われ、「父がわたしをお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」と閉じられた場から弟子たちをこの世へと遣わされるのです。礼拝でそれの場へと遣わされるのです。今朝も主イエスは私たちに「シャローム」あなたがたに平和があるように。」と告げておられます。しかしなぜ、まず「平和があるように」と言われたのでしょうか。ヨハネによる福音書では、主イエスは新しい戒めとして「互いに愛し合いなさい」と教えられ、マタイ、マルコ、ルカの方の共観福音書では最も大切な戒めとして「第一に神を愛するこ

と」「次に、隣人を自分を愛するように愛しなさい」、この掟、戒めを守るために「シャローム」がなくてはならないものだからです。主イエスに派遣されて、神を愛し、隣人を自分のように愛するということ、互いに愛する日々を送る時に、まず「シャローム」が必要なのです。使徒パウロはローマの信徒への手紙5章1節で、「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、」と、信仰により神さまとの間に「平和 シャローム」を得ていると言っています。人間は実に罪深いもので、ロシアのウクライナへの侵攻は大義名分を掲げた戦争で、人の命を奪って心も痛みません。罪に問われることもないのです。その殺し合いが今現在同じ空の下で行われています。国内では安倍元首相銃撃による殺害事件が、犯人の動機説明から、元統一協会と政治的つながりという非社会的カルト宗教の恐ろしい面が次々と明るみに出されてきています。このような中で、私たちは神を愛し、隣人を自分のように愛する、そして互いに愛し合う日々を送ることができるとは思えません。信仰生活を送る中で何度も疑いや迷い、動揺を覚えることがあります。神さまを信じても疑いの、何か事が起る度に動揺してしまい、祈っても聖書を読んでも少しも心が平安にならず、信仰を与えられながらも心が乱れて治まらない。「平安をください。心を落ち着かせてください。」と祈っても、なかなか平安が来ない。パウロは、「神との間に平和を得ており」と言っているが、どこに神さまとの平和があるのか、どうすれば平安が得られるのかと思わずにはいられない時があります。そして、そのことで神を否定することにつながることもあります。現世御利益を求める宗教がそれで、苦しみはご利益の反対なので。しかしパウロは「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」ということを「知っている者として、苦しみの中に見ようとする、その信仰の姿に」「神との間に平和を得ている」というみ言葉が実現していると言っています。この平和は「恵みが満ち足りていること」という意味を持ち、これこそがシャロームです。主イエス・キリストの十字架によって私たちが既に義とされているのであり、私たちが気づいているかいないかというところにかかわらず、今はもう神さまに対して平和・平安を得ている、その恵みの中に入れられているということに気づき、信じてことごとパウロは記しているのです。「信仰」とは「見えないものを信じる」と、今見えないものをも「信じる」とは言いません。ヘブル人への手紙11章1節にも、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」とある通りです。この見えない神の恵みを信じて平和への道を歩き始めよう。この見えない神の恵みが必ずや私たちに進むべき道を教える導いてくださるにちがいないと。これまでのこの暑い夏、報復は聞かない、戦争は聞かないと叫んできた中で、一向にその願いが聞きとどけられない現実があります。復活の主イエスが「平和があるように、シャローム」とまず平和を宣言して下さっておられるのですから、神さまとの間に平和をいただいて私たちが渡るように祈りを合わせて参りましょう。



してもらったら
うれしいことって
何かな。
それを私から
してみよう。
愛ことは
みなみななみ
ーみなみなみさんの
ポストカード

シャローム

ヘブライ語で「平和」を意味する言葉で、通常のあいさつとして、現在も使われています。「シャローム」は、単に戦争がないというだけではなく、神さまと人との関係があるべき関係になっており、神さまのみ旨に従った秩序をもって、人間がすべての被造物を用いている状態をさしています。したがって、社会的にも精神的にも満たされた安らかな状態にあることを意味しています。預言者たちは、このような平和の状態をメシアの到来と結びつけています。新約時代になり、このヘブライ語の「シャローム」が意味することと同じ意味をもって、「平和」という言葉が使われました。けれどもそれはイエスキリストによる十字架のあがないからくる「平和」神さまと人間がイエスキリストの十字架によって和解に導かれた結果としての「平和」です。

世界言葉で平和

- 英語 Peace (ピース)
- ギリシア語 εἰρήνη (エイレーネ)
- ロシア語 мир (ミール) 中国語 和平 (ホアピン)
- 韓国語 평화 (ピョンファ)

広島 (ヒロシマ)

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分。
原子爆弾リトルボーイは、第33代アメリカ合衆国 大統領ハリー・S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29 (エノラ・ゲイ)によって投下されました。
この1年に亡くなった方 4978人 計33万3907人

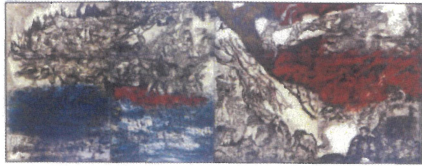
長崎 (ナガサキ)

広島の前爆投下から3日後の1945年8月9日午前11時2分、
B-29 (ボックスカー) が長崎市に原子爆弾ファットマンを投下しました。
7月末までの1年間に亡くなった方 3160人 計19万2310人

シャロームタイムズ

びじゅつかんへお出かけ
おばあちゃんや
いっしょに
みんなで出かけ
うれしな
こわくてかなしい絵だった
たくさんの人たちがしんできた
小さな赤ちゃんや、おかあさん
風ぐるまや、チヨウチヨの絵もあつたけど
ともかなしい絵だった
おかあさんが、
七十七年前のおきなわの絵だと言った
ほんとうにあつたことなのだ
たくさんの人たちがしんできて
ガイコツもあつた
わたしとおなじ年の子どもが
かなしそつに見ている
かわいよ
かわいよ
かわいよ
せんそうのはんたいはなに？
へいわ？
へいわつてなに？
きゆうにくわくなつて
おかあさんにくつした
あたたかくてほつとした
これがへいわなのかな？
おねえちゃんとかんかした
おかあさんは、二人の話を聞いてくれた
そして仲なお
これがへいわなのかな？
せんそうがかわいから
へいわをつかみたい
ずっとポケットにいれてもつておく
ぞつたいおとさないように
なくさないように
わすれないように
こわいをしつて、へいわがわかつた

山内小学校2年 徳元 穂菜



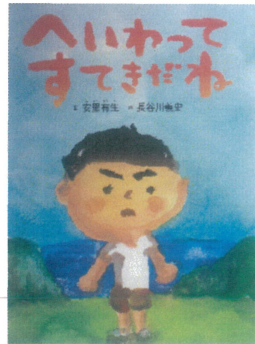
沖繩戦の図

丸木 俊・丸木位里

終戦から77年経つて、戦争を体験された方は年々減つてい
ることに加え、沖繩では、戦争を伝えているこうと戦争現場で
いま危機的状況が起こつていそうである。資料や戦争遺跡
77年前の沖繩戦を伝える『沖繩県平和祈念資料館』も相次いで
閉館している。そこで、保管されている資料や遺品は、温度・
湿度の変化や、外気に触れることだけでも劣化が進むため、
保管や展示が難しいといわれています。戦争遺跡も危機的状況に
あつて、（ガマ）と呼ばれる自然の洞窟では仲間を亡くし
た人がガマを訪れ、沖繩戦の平和学習ではガマに入り、その
暗さや蒸し暑さ、閉塞（へいそく）感を実感し、当時のつら
さを追体験していましたが、近年、ガマも崩落の危険による
閉鎖が相次いでいるそうです。「私のような戦争のある人生
を歩まないでほしい。だから私は、安全に整備して沖繩の戦
跡地として残していきたい」と、沖繩戦を研究する元沖繩
国際大学の教授は、「戦争体験者が減少して、あと数年たつ
たらゼロになる。それに代わるものとして、戦争遺跡がある
と思う」と指摘します。そして、資料や戦跡の保存が重要で、
次世代の語り部の育成が大事だといっています。また、戦争体験
を継（受け継）ぐプロジェクトとして活動している方々がありま
す。戦争を体験された方から若い世代の人に託された記憶の
バトンが渡されています。戦争を体験された方は言われます。
「私たち戦争世代はもう死んでいきます。戦争とはどうい
うものかを、自分のものとして想像して感じ取っていただき
たい」と。

平和って何か、有生くんは考えました。
ともだちとなかよし、家族がげんき、
笑顔であそぶ、けんかしても、すくなかなお。り。
やさしいところが にじになり、平和って嬉しい。
みんなのここから、へいわがうまれる。てス
普段の何気ない景色が平和であり、平和が続く
ステキだと感じ、これから、ずつと平和が続き
ます。

絵を描いた長谷川義史さんは、あとがき
の中で、思い、願いを語り、子どもたちに
その名をいけなさいと、生れたいと記して
います。



詩にありますが、沖繩の美術館に家族皆で出かけて、
最初は、みんなで行くことを穂菜さんは、「うれしな
」と歌っています。しかし、その後、絵を見て、その感情が暗
く沈みます。そして怖いと思つて、お母さんにくつしたと
き、あつたかさを感じたのです。普段はそんなことは思わな
いのかも知れませんが、しかし、こわい、恐ろしいと思つて、
心が冷えた時にお母さんにくつしたときの温かさ、ホツと
した、そのことを「あ、これがへいわつていうこと」なの
かと、実感したことが伝わってきます。戦争の怖さを知つて
あつたかき平和が身に染みわたりました。
平和をつかみたい。ずつとポケットに入れて持つておく。
ずつと平穏とさなないように、なくさないように、わすれない
ように、平和を手でつかみ、ポケットに入れる。穂菜さん
にとつては、平和が実態としてその手につかむことができ
るもの、平和は確実にあるものなのですね。「平和」という
文字がかすんでいような今、平和をしつかりつかむことを
教えられませんでした。家族で、美術館へ行かなければこの体験は
なかつたのではないのでしょうか。お母さんは、最初からこの
美術館に「沖繩戦の図」があることを知つていて、穂菜さん
にも伝えたいと思つて、みんなで出かけたのでしよう。第2
次大戦の終戦から77年。戦争を体験した人が少なくなつて
いくこの時、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを言葉
だけではなく、心に刻まれる経験として伝えていくことの大切
さを感じます。たとえ、自分が戦争を知らなくても、自分も
知ろうとして伝えていくとき、そのことで平和の大切さが伝
わつていくのではないのでしょうか。平和のために、子どもに
は、そのようなおとなが一人いることが大事なことです。

2013年の安里有生さんの詩、2022年の徳元穂菜さん
の詩：子どもたちが、平和について大事なことをおとなにも
教えてくれていきます。
教えてくれていきます。
イナへの侵攻、戦闘が、一刻も早く止むことを心から平和の
主に願ひ、祈つています。
私たちがおとなが、平和への意識をもつて、未来を担う子ど
もたちにどんな世界を残すか、目の前の子どもたちに何を残
すか考えて参りましょう。

の平和を語る会を行っています。
さて、はじめに今年の平和祈念式典で読まれた徳元穂菜さ
んの詩を紹介しましたが、2013年の沖繩全戦没者追悼式
で読まれた当時小学校1年生の、安里有生（あさとゆうき）さ
んが朗読した詩が絵本になりました。